

科 目	地歴・世界史B	単 位 数	2 単位	年 間 授 業 時 間 (予 定)	7 0 時間
対 象 学 年 ・ (組)	2 年 (1 ～ 6 組)	使用教科書(出版社)	『世界史B 新訂版』 (実教出版)		
	必 修	補 助 教 材 等	『グローバルワイド最新世界史図表』 (第一学習社)		

教 科 担 当 者

指導内容	具体的な指導目標	指導内容	具体的な指導目標	指導内容	具体的な指導目標	
4 月		ヨーロッパ世界の形成と展開	ノルマン人の移動がヨーロッパの歴史に与えた影響を理解させる。	11 1 月	近世ヨーロッパと大航海時代 ルネサンスと宗教改革の背景と経緯、「大航海時代」との同時代性、主権概念の成立と主権国家体制の形成について理解させる。	
	中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開	胡漢融合帝国たる隋・唐の成立と東アジアの国際関係について、ユーラシア大陸規模の気候変動との関連性を踏まえて理解させる。				
			ヨーロッパ世界の形成と展開			スラヴ民族の歴史を、キリスト教との関わりを軸に理解させる。
5 月	中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開	胡漢融合帝国たる隋・唐の成立と東アジアの国際関係について、ユーラシア大陸規模の気候変動との関連性を踏まえて理解させる。	ヨーロッパ世界の形成と展開	ヨーロッパのキリスト教徒とイスラーム教徒との関わりを理解させる。	11 2 月	近世ヨーロッパと大航海時代 ルネサンスと宗教改革の背景と経緯、「大航海時代」との同時代性、主権概念の成立と主権国家体制の形成について理解させる。
	イスラームの広がり	イスラーム帝国の成立過程と各地のイスラーム国家の歴史の変遷について、東アジアや中央ユーラシアの諸民族の動向と関連付けながら理解させる。				
	イスラームの広がり	イスラーム帝国の成立過程と各地のイスラーム国家の歴史の変遷について、東アジアや中央ユーラシアの諸民族の動向と関連付けながら理解させる。				
			中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編	宋と周辺諸民族の関わりを理解させる。		
6 月	イスラームの広がり	イスラーム帝国の成立過程と各地のイスラーム国家の歴史の変遷について、東アジアや中央ユーラシアの諸民族の動向と関連付けながら理解させる。			11 3 月	産業革命 アメリカの独立 フランス革命と19世紀前半の世界 社会の産業化と国民国家の形成が相互に関係しつつ進んだことにより、ヨーロッパを中心とする近代世界が成立したことを理解させる。
	ヨーロッパ世界の形成と展開	ヨーロッパの気候と風土の特徴、およびその歴史に与えた影響を巨視的に理解させる。				
			中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編	モンゴル帝国拡大の背景を遊牧民の生活と関連付けて考察させる。		
7 月	ヨーロッパ世界の形成と展開	ゲルマン民族の歴史を、キリスト教との関わりを軸に理解させる。			12 1 2 月	【評価の観点・方法】 〔評価の観点〕 ・ 基本的な事項について理解しているか。 ・ 予習ができていないか。 ・ 自分の意見を明確に示す事ができるか。 ・ 発問に対して的確に答えられているか。 〔評価方法〕 ① 考查点 ② 授業への取り組み、出席 ③ 提出物の提出と内容 ①～③を総合的に判断し、評価